

俊成卿墓〔同所にあり〕○俊成卿女墓〔同所にあり、浄如尼と号す、或カ云、俊成公の母の墓とぞ、謬なり。四至文の年歴相違へり。此傍に古墳多し、法諱詳ならず。原は法性寺の地なり、こゝに永明院を創す、一代の院主地を分て南明院を建る、此墓今南明院の地なり、左の置文永明院にあり〕

其置文云

法性寺俊成の卿御はか山林の事

合

一ひがしは上のいなりのかへりさかひさもん堂谷へゆき、みちのとをり南へのたにをかぎりてなり

一南は西東へのたにこいけの上下南の山きはをかぎりてなり

一西は山だのにしきた南へのぼりをかぎりてなり

一北はいなりのかへりさかのみちをかぎりてなり

右の御はか山下地とも此ふんにて候べし後のため註して候べく候

かうあん二年八月五日

浄如判

古文書云 俊成卿墳墓事、自三月見殿可相計之由承候之際申付当院候、殊灑掃墓壇守護竹木可下被訪彼亡

魂菩提給上候也、恐々謹言。

八月廿七日

祖 禪 判

永明院僧衆御中

〔祖禪ハ東福ノ住持芬陀利花ふんだりけ定山和尚なり〕

東野州聞書云 或人語しは、俊成卿の墓東福寺の永明院の奥の山にありと申せしなり。此永明院の主にておはします間、毎月廿九日今も弔ひ奉るとかや。毎朝大悲咒一反あり、回向には五条三位俊成釈阿と入よし、やがて彼院の僧申なり。

嵯峨記（藤原植通）云 東福寺南明院は俊成卿の建立にて侍る。

於<sub>ニ</sub>永明院俊成卿墓<sub>ニ</sub>

雪玉集 敷島の道にはおやの親の跡ととふをばしるや露の古郷

実 隆